

第3号通巻15号1988年春発行（不定期発行）発行元：南郷荘運営委員会 住所：東京都国立市富士見台1-28, 1-27-302
 TEL: 042-574-7479 南郷荘 e-mail: nangoso@aa.alles.or.jp 南郷荘 HP: <http://www.alles.or.jp/~yoshihiro/nangoso.html>
 2007年8月 日発行 制作・編集 「アキツウ編集部」

南郷荘 2000~2007 のあゆみ

～ 施設整備の変遷を中心に、2000年以降の南郷荘のあゆみを振り返ってみました ～

■ 2000年

1995年に盛大なお別れをした南郷荘、運営を任されることに。私達の「運営委員会」体制となり、帰ってきました。早速、運営委員みんなで本館（せせらぎ）の天井の取り払いや、8畳間（かじか）の電灯スイッチ改良などに取り組みました。

<この年の主なイベント>

たけのこ掘り、夏キャンプ



南郷荘の新しいスタート



施設改良の作業風景

■ 2001年

施設改良に本格的に取り組む意気込みで、壁上部の穴塞ぎや、出入り口上部の電気設備を含めた壁の試作的改造を行いました。しかし、その部分だけに終わり、全体に波及はしませんでした。

<この年の主なイベント>

たけのこ掘り、夏キャンプ

編集部より お詫び

『秋川キャンプ通信』、第2号発行から長い長い月日が流れてしまいました。編集担当の怠慢、誠に申し訳ありません。でも滞っていたのは通信の発行だけです。この間、南郷荘はたくさんの方々にご利用され、同時にメンテナンスが進み、大きく変化し、成長しました。今号では、組織施設担当・清水氏に、施設整備の変遷を中心にして南郷荘の歩みを振り返ってもらいました。2000年~2007年のダイジェストとしてご覧ください。

■ 2002年

組織施設担当の本業が最悪の事態となり、施設担当の活動は停滞しました。もちろんこの間も、佳宏代表や中村壮志氏による地道な手入れは続きました。

＜この年の主なイベント＞

たけのこ掘り、夏のキャンプ

＜年間利用＞ のべ 16 団体



南郷荘を利用したパーティーも



たくさんの利用がありました

■ 2003年

組織施設担当の本業にもわずかに光明が見え始め、過去の活動停滞の反省から、「月例メンテナンス」、月に1度以上は南郷荘入りすることに取り組みました。技術基準に適合しない電気設備を改修したり、凍結防止のコンセントを全水道管に配備しました。

＜この年の主なイベント＞

たけのこ掘り、夏のキャンプ

＜年間利用＞ のべ 15 団体

■ 2004年

この頃から運営委員会外の人たちの協力や意見もいただけるようになり、調理場を整然とさせたり、組織施設担当の工具類整理に連動して不用品の整理を進めました。特に、ごみ置き場と化していた調理場とかじかの間をきれいにしました。

＜この年の主なイベント＞

たけのこ掘り、夏のキャンプ

＜年間利用＞ のべ 22 団体



「せせらぎ」前での恒例の流しそうめん



着々と進む工事

■ 2005年

日照遮蔽林伐採が始まり、太田佳宏代表が奮闘しました。この年、ウッドデッキとトイレが着工になりました。それまで掛け声で終わっていた大型プロジェクトも、ウッドデッキ（中村イベント担当）、水洗トイレ（清水組織施設担当）と具体的に始まりました。もちろんその基盤には、伐採と連動した大田代表の大変な奮闘がありました。

＜この年の主なイベント＞

たけのこ掘り、夏のキャンプ

＜年間利用＞ のべ 20 団体



ついにウッドデッキが完成！



「南郷荘文庫」もできました

■ 2006年

まる 1 年以上かけたウッドデッキが完成、それを舞台に中村壮志氏らの「風響月歌」のコンサートを開催しました。川と滝をみおろすデッキ。ジメジメとしてややもすると陰気だった南郷荘のイメージを一新。自然と人が集うようになりました。一方で水洗トイレの方は、こちらは大工・中村則明氏の絶大な協力で本格的な建築となりました。引き続き工事中ですが、女性客も増え、早期完成がますます求められています。運営委員会活動のレベルアップを感じた 1 年でした。

<この年の主なイベント>

たけのこ掘り、夏のキャンプ

<年間利用>

のべ 13 団体

■ 2007 年、そして今後

新トイレの建物の姿はすでに出来ています。今後浄化槽を埋め、夏までには供用開始したいところ。また、伐採からはじまり、自分達での製材作業なども盛んになってきたので、工場棟を建築します。

風呂場の大改築構想が数年前に出ました。財源の問題もあり実現に至っていませんが、5 年程度後には南郷地区も下水道が整備されるので、その際に大規模な改修を計画します。となると、今の風呂場はあと 5 年程度使用するので、簡易リフォームを進めています。これには中村壮志氏が奮闘しています。

ウッドデッキをはじめとする工事では、資材の搬入が大変でした。たとえば、1 立方メートルのコンクリート、見た目にはちょっとした物ですが、実に約 2 トンの重量があり、セメント袋で 80 袋分にもなります。つまり、ちょっとしたコンクリートのたたきを作るだけで、道路～吊り橋、そして南郷荘へと 80 往復もしなければなりません。

クルマで直接入っていけないのは不便ですが、それ自体が南郷荘の魅力でもあります。そこで現在、まずは集材機を設置して荷物を輸送。将来はみかん畑のモノレールやトロッコを建設する構想もあります。

本館（せせらぎ）も、老朽化が進み、今後 10 年以内に何らかの補強や改修が必要と思われます。古い建物の良さを活かしつつ、冬も快適に過ごせる建物にしていきたいと考えています。

南郷荘運営委員会 組織施設担当 清水高弘

「装置」を作ったのは初めてだった。しかも、裏の竹林から竹を切り出すところから始まるというのがなんとも意表をついていて新鮮だった。食事の支度が、のこぎり・ナタから始まるのだから、これほど悠長な話もない。しかし面白い。小学生の正人君など出来れば自分一人で全部やってしまいたいように入れ込みようだった。女性も何人か参加して、十名ほどが入れかわりたちかわり、のこぎりを引き、ナタで小枝を払った。

切り出した一本の孟宗竹を真っぶたつにして、多少とも大きな目の方を「装置」にする。中の伏を取り払って、こすって洗えば完成である。

うまかったな、そうめん。

先ず竹を切り出しそうめん流しけり

前夜、星を見に行った。自動車で三十分ほどのぼっていく。道は途中から舗装されていない。どんどん暗くなっていく。峠の切通しで車を降りた。一人でいたらおっかなそうなどころである。あいにく雲が急にかかり始めてきて、満天の星というわけにはいかなかった。流れ星を一つ発見した。一瞬のことだ

ったので見ていたのは数人だったようだ。願い事をとねえられたのは誰もいなかったようだ。

雲間よりカシオペアがあらはれぬ

わずか一泊だったが、南郷荘はずっと以前から知っている懐かしいところだと感じている。それは建物が古いからというだけではないだろう。いきいきと動いている太田佳宏さん、一週間前に学びの広場のやや年下の人たちと泊まってくれて、同じように動いていたであろう飯田玄さんや仲間たちの少年時代からの思い出の場所であるそうだと。そこを今、運営できる彼らは幸せものである。私

の夏の思い出は九州の雲仙ふもとの麓の母の実家のあった
千々石（ちぢわ）というところだ。今は記憶のなかだけにある。

夏の川ふるさと遠くなりけり

遊々舎と学びの広場の合同の屋外イベントとしては初めての試みだった。特別にかまえることもなく、かといってお互いに知らん顔をしていることもなくごく自然にふるまっ

っていたのは、両方の少年少女青年男女なかなかのものだった。案ずるより産むがやすしいことなのだろう。

帰り五日市の駅に着いてバスから降りたらずでに空気がジトつとした感じになっていった。電車を待つ間、ホームで清涼飲料水をたてつづけに二本飲んだ。家に着いてから麦茶を飲み牛乳を飲んだ。暑い暑い夏はこれから本番を迎え、さらに続いていく。川の流れの冷たさを思い出しながら何とかしのいでいこうとおもう。ここは常夏の国ではないのだから、そのうち秋風がたつだろう。



寄

南郷荘を利用した加藤正文さん
(学びの広場)が、感想を寄せて
くださいました。

流し素麺・蝉時雨

加藤正文

初めて南郷荘に泊まった。

七月二十一日から二十二日まで、この暑い夏
が、さらに暑くなる節目のころだった。

今あらためて参加メンバーを思いおこしてみ
ると、年令は十才未満から、十代二十代三十代
四十代五十代六十代と、すべてそろっている。
こういうのも層が厚いというのだろうか。年令
もさることながら、持ち味からしてもいろんな
人がいた。これ以上人数が多いと暑く苦しくて
いけないというギリギリの、総勢二十三名。

暑いさかりの涼しさはもうそれだけでありが
たい。行く前も、行ったあとのここ数日も朝は
暑くて目がさめているが、南郷荘では寒くて目
がさめた。たっぷりある毛布をとりにいこう
か、だけどまだねむいなと迷っているうちに又
とろとろとねむってしまった。

すぐ前の川の水が冷たくて、川の中ほどでじつ
と突っ立って、足で水の冷たさをたっぷり味わ
った。そのうちくたびれたので、近くの岩に腰
かけた。まわりの青年たちも同じような行動を
取っている。少し下流の方では年少少女たちが
水着になって、はしゃいでいる。浮き輪につか
まっている人もいる。

目と足で涼を味わう流れかな

不動滝というなかなか立派な名前の滝は、
五く六メートル上から水が勢いよく落ちてく
る。水が次々とやってきて落ちてゆくその当た
り前の風景が意外とあきあせないのは焚き火
の面白さと似ているかもしれない。焚き火では
ないが、出たごみ夫なんかいかにまとめて燃や
したがそのたびにまわりに何人も集まって炎
を見ていた。水にも日にも生きものとしての私
たちの人間の心の奥で強く感応する
部分があるのかもしれない。

不動の滝の、水が落ち始めるあたりの脇は川
をのぞきこむようにして白百合が一輪咲いて
いた。

せせらぎに耳をかたむける百合の花

二日目の朝、二組に分かれピストン輸送をして
もらって弘沢の滝に行った。豪快だった。

滝つぼのまわりにみんなで腰掛けて二十分ほ
ど涼んで帰った。

弘沢の滝に入る脇通の入り口に豆腐屋があつ
た。来るたんびに買って帰るという千田さん
(唯一四十代のこの人がいて、世代の切れ目が
なくて済んだ。指折り数えたらちやうど十年目
のボランティア参加であった)が、出来立ての
布ごし豆腐をたくさん差し入れてくれた。帰っ
てすぐの朝食に食べたらいいしかった。ありが
とう。

大滝の脇の小滝の果敢なり

蝉時雨をこの夏初めて浴びた。夏を時間
した。

吊り橋を渡って夏の家に着く

大の字に寝る岩の上・蝉時雨

着いた時・出発の時・蝉時雨

流しそうめんを二日目の昼に食べた。流
しそうめんは初めてではないが、前にはいつ
食べたかと思ひ出せないほど久しぶりであ
る。

9月8日(土)～9日(日)

2007年 秋川キャンプ のご案内

夏恒例「秋川キャンプ」は、今 がなんとなんと、**記念すべき 第30回目！！**
1977年の第1 から、長〜い が続いています。今年ももちろん BBQ、流し ーメン、
ムチ ー くだり、 取り、 工工作、やまの上のター ンなどなど、盛りだくさんの
定です。 お気 にご参加ください！（お申込みは太田まで）

記

- * 日 時 : 平成19年9月8日(土)～9日(日)
- * 参 加 費 用 : 実費 (2千円～宿泊4千円くらい) 交通費各自負担
- * 持ち物/服装: 水着、上っ張り、運動靴、汚れてもいい格好 (BBQ、ソーメン)

な

南郷荘運営委員会会計報告

しくは <http://cgi.netlaputa.ne.jp/~tonezou/akikawa/index.htm> をご覧ください
2007年07月31日現在の 支は 500,000 です。

な

南郷荘のご利用案内

日 大人 1500
供 750
日 大人 1000
供 500
車場代1台500
その 応 いたします
は以下の連 先まで

な

南郷荘運営委員の募集

現在、南郷荘運営委員会では
協力していただける委員を
いつでも 集めています。実際
いろいろな 業の委員がいます。

はこれができる な方
大 迎です。その 供大 きな
方、自然が きな方、 集します。
基本的にボランティアですが、委
員ともなれば 実した一日を過ご
せます。

は以下の連 先まで

だ

代表のつぶやき

より快適に と での を しんで
もらえるようやらねばならない施設の
修復 所は、やれどもやれども少なくな
ることはなく、むしろ年々増えていくよ
うです。でもこれがなくなると らの
場所がなくなるかな とも 。太田

へ

編集後記

3号発行に何年もかかり申し訳あ
りません！ 事で らしにな
り、南郷荘にはもう 年も足を運
べず。 真だけで っているここ
数年の南郷荘の変 ぶりを、早く
この目で見てみたい 。 外

れ

連絡先

— 南郷荘の利用・運営委員の募集 —

e-mail: nangoso@aa.alles.or.jp

〒186-0003 東京都国立市富士見台 1-28, 1-27-302

Tel: 042-574-7479(なよなよ泣く) 担当太田